データ通信

データ通信について

FOMA 端末から利用できるデータ通信の形態や利用時の留意点について説明します。

- FOMA端末はRemote Wakeupには対応していません。
- FOMA端末はFAX通信をサポートしていません。
- FOMA 端末をドコモの PDA「sigmarion Ⅱ」や「musea」に接続してデータ通信を行う場合、「sigmarion Ⅱ」や「musea」をアップデートしてご利用ください。アップデートの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。

利用できる通信形態

FOMA 端末の通信形態は、パケット通信、64K データ通信、データ転送の 3 つに分類されます。
これらの通信は、添付の CD-ROM から関連ソフトをパソコンにインストールし、FOMA 端末とパソコンを接続して各種設定を行うと利用できます。

■ **パケット通信**

パケット通信は送受信したデータ量に応じて課金されるので、メールの送受信など、比較的少ないデータ量を高速でやりとりするのに適しています。ネットワークに接続していても、データの送受信を行っていないときには通信料がかからないので、ネットワークに接続したまま必要なときにデータを送受信するという使いかたができます。
ドコモのインターネット接続サービス mopera U / mopera など、FOMA のパケット通信に対応したアクセスポイントを利用して、受信最大 384kbps、送信最大 64kbps の高速パケット通信が可能です。通信環境や混雑状況の影響により通信速度が変化するベストエフォートによる提供です。
画像を含むホームページの閲覧、データのダウンロードなどデータ量の多い通信を行った場合、通信料が高額になりますのでご注意ください。

■ **64K データ通信**

64K データ通信は 64kbps の安定した通信速度でデータ送受信できます。データ量に関係なく、ネットワークに接続している時間の長さに応じて課金されるので、マルチメディアコンテンツのダウンロードなど、比較的データ量の多い送受信を行うのに適しています。ドコモのインターネット接続サービス mopera U / mopera など、FOMA 64K データ通信に対応したアクセスポイント、または ISDN の同期 64K アクセスポイントを利用します。

■ **データ転送**

FOMA USB 接続ケーブル（別売）を使ってデータを転送・交換する、課金が発生しない通信形態です。電話帳や送受信メール、ブックマークなどの各種データを送受信します。

ご利用時の留意事項

インターネットサービスプロバイダの利用料について

パソコンからインターネットを利用する場合は、通常ご利用になるインターネットサービスプロバイダ（以降、プロバイダ）に対する利用料が必要です。この利用料は、FOMA サービスの利用料とは別に直接プロバイダにお支払いいただきます。利用料の詳しい内容については、ご利用のプロバイダにお問い合わせください。

- ドコモのインターネット接続サービス mopera U / mopera をご利用いただけます。mopera U は、お申し込みが必要（有料）です。ブロードバンド接続や国際ローミングなどに対応し、使用した月だけ月額使用料がかかるプランもございます。また、mopera は、お申し込み不要、月額使用料無料です。今すぐインターネットに接続できます。利用料などの詳細については、ドコモのホームページをご覧ください。

接続先（プロバイダなど）の設定について

パケット通信と 64K データ通信では接続先が異なります。パケット通信を行うときは FOMA のパケット通信に対応した接続先、64K データ通信を行うときはFOMA 64Kデータ通信、またはISDN同期64K対応の接続先をご利用ください。

- DoPa のアクセスポイントには接続できません。
- PIAFS などの PHS64K ／ 32K データ通信のアクセスポイントには接続できません。

ネットワークアクセス時のユーザ認証について

接続先によっては、接続時にユーザ認証（ID とパスワード）が必要な場合があります。その場合は、通信ソフトまたはダイヤルアップネットワークで ID とパスワードを入力して接続してください。ID とパスワードは接続先のプロバイダまたは接続先のネットワーク管理者から付与されます。詳しい内容については、プロバイダまたは接続先のネットワーク管理者にお問い合わせください。

パソコンのブラウザを利用してのアクセス認証について

FirstPass（ユーザ証明書）の認証を行う場合は添付の CD-ROM から FirstPass PC ソフトをインストールし、設定してください。詳しくは添付の CD-ROM 内の「FirstPassManual」をご覧ください。
「FirstPassManual」（PDF 形式）をご覧になるには、Adobe Reader（バージョン 6.0 以上を推奨）が必要です。パソコンにインストールされていない場合は、アドビシステムズ株式会社のホームページから最新版をダウンロードできます（別途通信料が

かかります)。詳しくはアドビシステムズ株式会社のホームページを参照してください。

■ **FirstPass PC ソフトの動作環境**

項　目	必要環境
パソコン本体	PC/AT 互換機
OS	Windows 98SE、Me、2000、XP(各日本語版)
必要メモリ※1	Windows 98SE、Me、2000:32MB 以上 Windows XP:128MB 以上
ハードディスク容量※1	10MB 以上の空き容量
ブラウザ	Microsoft® Internet Explorer 5.5 以上 Windows XP の場合は Microsoft® Internet Explorer 6.0 以上

※1:パソコンのシステム構成によって異なります。

パケット通信および64Kデータ通信の条件

FOMA 端末で通信を行うには、次の条件が必要です。

- FOMA USB 接続ケーブル(別売)を利用できるパソコンであること
- FOMA サービスエリア内であること
- パケット通信の場合、接続先が FOMA のパケット通信に対応していること
- 64K データ通信の場合、接続先が FOMA 64K データ通信、または ISDN 同期 64K に対応していること

ただし、上記の条件が整っていても、基地局が混雑していたり、電波状況が悪かったりする場合は通信できないことがあります。

データ通信編の用語集

● APN(Access Point Name)
パケット通信で接続するプロバイダや社内 LAN を識別する文字列。mopera U は「mopera.net」が、mopera は「mopera.ne.jp」が APN となります。

● cid(Context Identifier)
パケット通信の接続先(APN)をFOMA端末へ書き込むときの登録番号。FOMA端末では1から10までの10件が使えます。
お買い上げ時、cid 1 には「mopera.ne.jp」、cid 3 には「mopera.net」が登録されています。

● W-TCP
FOMA ネットワークでパケット通信を行う際に、TCP/IP の伝送能力を最大限に生かすための TCP パラメータ。FOMA 端末の通信性能を最大限に活用するには、この通信設定が必要です。

● 管理者権限
Windows XP、2000を使用するときに、OSのシステムなどすべてにアクセスできる権限のこと。1台のパソコンに最低1人は、パソコンの管理者権限を持つユーザが設定されています。通常、パソコンの管理者権限がないユーザは、ドライバ、ソフトなどのインストールおよびアンインストールができません。

データ通信の準備の流れ

パソコンと FOMA 端末を接続して、パケット通信または 64K データ通信を利用する場合の準備は次のような流れになります。

通信設定ファイルのインストール☛P401
↓
パソコンと FOMA 端末の接続☛P400
↓
通信設定ファイルの確認☛P402
↓
FOMA PC設定ソフトのインストール☛P403
↓
(かんたん設定)パケット通信設定
●mopera U / mopera ☛P404
●その他のプロバイダ ☛P405

(かんたん設定)64K データ通信設定
●mopera U / mopera ☛P406
●その他のプロバイダ ☛P407
↓
通信実行☛P408(切断☛P409)

FOMA PC設定ソフトを使わない通信の設定☛P411
↓
接続☛P420(切断☛P420)

通信設定ファイル(ドライバ)について

FOMA端末をパソコンに接続して通信モードでデータ通信を行うには、添付の CD-ROM から通信設定ファイルをインストールする必要があります。

FOMA PC設定ソフトについて

添付のCD-ROMからFOMA PC設定ソフトをパソコンにインストールすると、FOMA 端末とパソコンを接続して、データ通信を行うために必要なさまざまな設定を、パソコンから簡単な操作で行えます。

動作環境の確認

通信設定ファイルおよびFOMA PC設定ソフトは、次の動作環境でご利用ください。

項　目	必要環境
パソコン本体※1	PC/AT 互換機
OS	Windows 98、Me、2000、XP（各日本語版）
必要メモリ	Windows 98、Me：32MB 以上 Windows 2000：64MB 以上 Windows XP：128MB 以上
ハードディスク容量	5MB 以上の空き容量

※ 1：USB ポート（USB 仕様 1.1/2.0 に準拠）が必要です。

おしらせ

- 動作環境によってはご使用になれない場合があります。また、上記の動作環境以外でのご使用による問い合わせおよび動作保証は、当社では責任を負いかねますのであらかじめご了承ください。
- 本章の説明は、主に Windows XP での操作方法を例にしています。他の OS では画面の表示が異なる場合があります。また、Windows 98 と Windows 98SE をまとめて Windows 98 と表記しています。

インストール・アンインストール前の注意点

- Windows XP、2000で通信設定ファイルやFOMA PC設定ソフトのインストール・アンインストールを行う場合は、必ずパソコンの管理者権限を持ったユーザで行ってください。それ以外のユーザで行うとエラーになります。パソコンの管理者権限の設定操作については、パソコンの取扱説明書をご覧になるか、各パソコンメーカやマイクロソフト社にお問い合わせください。
- 操作を始める前に、稼動中の他のプログラムがないことを確認してください。稼動中のプログラムがあった場合は、プログラムを保存・終了させた後に行ってください。

パソコンと FOMA 端末を接続する

パソコンと FOMA 端末は、電源が入っている状態で接続してください。

- 通信モードで初めてパソコンに接続する場合は、必ず通信設定ファイル（ドライバ）を先にインストールしてください。☛P401
- miniSD モードで初めてパソコンに接続した場合は、OS が自動的にドライバをインストールします。あらかじめ通信設定ファイルをインストールする必要はありません。ただし、miniSD モードに対応している OS は Windows XP、2000 のみです。

USB 接続時にパソコンで操作する内容を設定する　USB モード設定

パソコンと FOMA 端末を接続したとき、パソコンでデータ通信を行うか、パソコンから FOMA 端末に取り付けられている miniSD メモリーカード内のデータを操作するかを設定します。

お買い上げ時　通信モード

1 Menu 6 2 4 ▶ 1 ～ 2

通信モード
：パソコンでデータ通信を行うモードです。

miniSD モード
：パソコンから FOMA 端末に取り付けられている miniSD メモリーカード内のデータを操作するモードです。

2 **「はい」を選択**

おしらせ

- パソコンと FOMA 端末を接続していても本機能の設定を変更できます。
- パソコン側で、FOMA 端末を接続すると自動的にデータ通信を行うように設定している場合は、miniSD モードに設定できないことがあります。
- 通話中やプッシュトーク通信中、ｉモード中は、miniSD モードに設定できません。
  また、パソコンから miniSD メモリーカードを操作しているときは通信モードに設定できないことがあります。
- miniSD モードに設定したとき
  - パソコンから FOMA 端末に取り付けられている miniSD メモリーカードを初期化すると、FOMA 端末で正常に使用できなくなる場合があります。初期化は FOMA 端末で行ってください。☛P340
  - FOMA 端末にパソコンを接続していない状態で miniSDメモリーカードへのアクセスがなく約90秒が経過すると、自動的に通信モードに切り替わります。
  - 電話やｉモードなどが通信できなくなります。
  - 着信ランプが点滅します。
  - miniSD メモリーカードの操作を終了するときは、タスクトレイの をクリックし「USB 大容量記憶装置デバイス－ドライブ（E:）※2 を安全に取り外します」をクリックしてください。

    ※ 2：ドライブに割り当てられる文字はパソコンのシステムによって異なります。
- パソコンから操作したときの miniSD メモリーカードのフォルダ構成について☛P333

※ miniSD メモリーカードをご利用になるには、別途 miniSD メモリーカードが必要となります。☛P332

接続のしかた

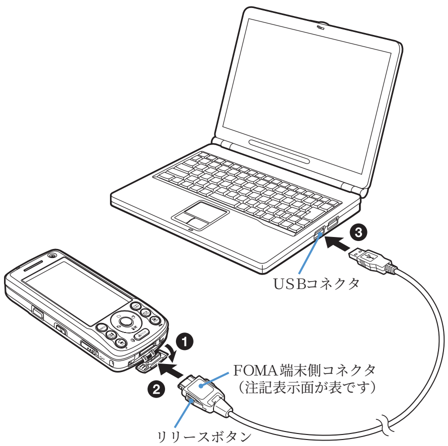
FOMA USB接続ケーブル（別売）を使って接続します。

❶ **FOMA端末の外部接続端子の端子キャップを開く**

❷ **FOMA USB接続ケーブルのFOMA端末側コネクタを、「カチッ」と音がするまでFOMA端末の外部接続端子に差し込む**

❸ **FOMA USB接続ケーブルのパソコン側コネクタを、パソコンのUSBコネクタに差し込む**

- 通信モードでパソコンとFOMA端末が接続されると、FOMA端末の画面に が表示されます。
- 通信モードで通信設定ファイルのインストール前にパソコンに接続した場合は、FOMA USB接続ケーブルが差し込まれたことを自動的に認識してドライバが要求され、ウィザード画面が表示されます。その場合は、FOMA端末を取り外し、ウィザード画面で［キャンセル］をクリックして、終了してください。



■ **取り外しかた**

FOMA端末側コネクタの両側のリリースボタンを押しながら引き抜きます。パソコン側コネクタはそのまま引き抜きます。

■ **充電しながら接続する**

データ通信アダプタ D01（別売）を使って充電しながら接続できます。ただし、充電時間が長くなります。

おしらせ

- データ通信中にFOMA USB接続ケーブルを外さないでください。パソコンやFOMA端末の誤動作や故障、データ消失の原因となります。

通信設定ファイル（ドライバ）をインストールする

FOMA端末をパソコンに接続して通信モードでデータ通信を行うには、通信設定ファイルをインストールしてください。

- miniSDモードでパソコンと接続する場合は、通信設定ファイルのインストールは不要です。

通信設定ファイルをインストールする

操作の前に、必ず「インストール・アンインストール前の注意点」をお読みください。☛P400

例 Windows XPの場合

1 添付のCD-ROMをパソコンにセット

- FOMA端末は操作1～3を行った後にパソコンに接続してください。

2 ［スタート］→「ファイル名を指定して実行」をクリック ▶「名前」に「< CD-ROMドライブ名>：¥USBDRIVE¥D902iin.exe」を入力 ▶［OK］をクリック

3 ［はい］をクリック

FOMA D902iをパソコンに接続する旨の画面が表示されます。

4 FOMA端末をパソコンに接続する

インストール中の画面が表示され、インストールが自動的に完了します。

- FOMA端末は電源の入った状態で接続してください。
- インストールされたデバイスの種類とデバイス名を確認してください。

おしらせ

- インストールには数分かかることがあります。
- Windowsを再起動する旨の画面が表示されたときは、画面の指示に従い、再起動してください。
- 通信設定ファイルのインストールを行う前にパソコンとFOMA端末を接続すると、自動的に別のドライバがインストールされてしまう場合があります。その場合、操作2でアンインストールする必要がある旨のメッセージが表示されます。このときは画面の指示に従ってアンインストールを行った後、通信設定ファイルをインストールしてください。

通信設定ファイルを確認する

FOMA 端末がパソコンに正しく認識されていない場合、設定および通信はできません。

例 Windows XP の場合

1 [スタート]→「コントロールパネル」→[パフォーマンスとメンテナンス] アイコン→ [システム] アイコンをクリック

「システムのプロパティ」画面が表示されます。

■ Windows 2000、Me、98 の場合：
① [スタート] →「設定」→「コントロールパネル」をクリック
② [システム] アイコンをダブルクリック

2 [ハードウェア] タブをクリック ▶ [デバイスマネージャ] をクリック

「デバイスマネージャ」画面が表示されます。

■ Windows Me、98 の場合：[デバイス マネージャ] タブをクリック

3 各デバイスをダブルクリック ▶ インストールされたデバイス名を確認する

インストールしたデバイス名がすべて表示されていることを確認します。

デバイスの種類	デバイス名
ユニバーサル シリアル バスコントローラ または USB（Universal Serial Bus）コントローラ	• FOMA D902i • FOMA D902i Command ※1 • FOMA D902i Modem ※1 • FOMA D902i OBEX ※1
ポート（COM/LPT）または（COM と LPT）	• FOMA D902i Command Port（COMx）※2 • FOMA D902i OBEX Port（COMx）※2
モデム	FOMA D902i

※1：Windows Me、98 の場合のみ表示されます。
※2：COMx はお使いのパソコンによって異なります。

通信設定ファイルをアンインストールする

操作の前に、必ず「インストール・アンインストール前の注意点」をお読みください。☛P400
アンインストールを実行する前に、必ずパソコンから FOMA 端末を取り外してください。

例 Windows XP の場合

1 [スタート]→「コントロールパネル」→[プログラムの追加と削除] アイコンをクリック

「プログラムの追加と削除」画面が表示されます。

■ Windows 2000、Me、98 の場合：
① [スタート] →「設定」→「コントロールパネル」をクリック
② [アプリケーションの追加と削除] アイコンをダブルクリック

2 「FOMA D902i USB」を選択 ▶ [変更と削除] をクリック

3 プログラム名を確認して [はい] をクリック

通信設定ファイルのアンインストールを開始します。

4 [OK] をクリック

おしらせ

● インストールに失敗したとき、または操作 1 の画面に「FOMA D902i USB」が表示されていないときは、添付の CD-ROM をパソコンにセットし、[スタート] →「ファイル名を指定して実行」をクリックして「< CD-ROM ドライブ名 >：¥USBDRIVE¥D902iin.exe」を入力し、[OK] をクリックして直接実行し、通信設定ファイルをアンインストールしてください。
● Windows Me、98 では通信設定ファイルのアンインストール後、すぐにインストールし直してデータ通信を行うと、パソコンなどの環境によっては正しく通信できないことがあります。その場合は、FOMA USB 接続ケーブル（別売）を一度抜き差ししてからデータ通信を行ってください。

FOMA PC設定ソフトを利用して通信する

FOMA 端末をパソコンに接続してパケット通信や 64K データ通信を行うには、通信に関するさまざまな設定が必要です。FOMA PC設定ソフトを使うと、簡単な操作で次の設定ができます。

■ **かんたん設定**
ガイドに従い操作することで、「FOMA データ通信用ダイヤルアップの作成」を行い、同時に「W-TCP の設定」などを行います。

■ **W-TCP の設定**
「FOMA パケット通信」を利用する前に、パソコン内の通信設定を最適化します。通信性能を最大限に活用するには、「W-TCP 設定」による通信設定の最適化が必要です。

■ 接続先（APN）の設定

「パケット通信」を行う際に必要な「接続先（APN）の設定」を行います。

FOMA パケット通信の接続先には、64K データ通信と異なり、通常の電話番号は使用しません。あらかじめ接続先ごとに、FOMA 端末に APN と呼ばれる接続先名を設定し、その登録番号（cid）を接続先電話番号欄に指定して接続します。お買い上げ時、cid の 1 番には、mopera に接続するための APN「mopera.ne.jp」が、3 番には、mopera Uに接続するためのAPN「mopera.net」が登録されていますが、その他のプロバイダや社内LANに接続する場合はAPN設定が必要になります。

FOMA PC設定ソフトをインストールする

- 古いバージョンのFOMA PC設定ソフト（バージョン1.00）がインストールされている場合は、添付のCD-ROMからFOMA PC設定ソフト（バージョン2.00）をインストールする前にアンインストールしてください。バージョンは、FOMA PC設定ソフトの「メニュー」→「バージョン情報」で表示できます。
- お使いのパソコンに、本機種より前に発売されたFOMA 端末に添付の「W-TCP 環境設定ソフト（以降、旧「W-TCP 設定ソフト」）」、および「FOMA データ通信設定ソフト（以降、旧「FOMA データ通信設定ソフト」）」がインストールされている場合は、あらかじめそれらのソフトをアンインストールしてください。
- 操作の前に、必ず「インストール・アンインストール前の注意点」をお読みください。☛P400

例 Windows XP の場合

1 添付のCD-ROMをパソコンにセットする

2 ［スタート］→「ファイル名を指定して実行」をクリック ▶「名前」に「< CD-ROMドライブ名>:¥FOMA_PCSET¥setup.exe」を入力 ▶［OK］をクリック

3 ［次へ］をクリック

FOMA PC設定ソフトの使用許諾契約が表示されます。

4 内容を確認の上、契約内容に同意する場合は［はい］をクリック

5 「タスクトレイに常駐する」が選択されていることを確認して［次へ］をクリック

セットアップ後、タスクトレイに「W-TCP 設定」が常駐します。☛P409

- 「W-TCP 通信」の最適化の設定・解除を操作する機能で、常駐をおすすめします。
- インストール後に常駐の設定は変更できます。



6 インストール先を確認して［次へ］をクリック

7 プログラムフォルダのフォルダ名を確認して［次へ］をクリック



8 ［完了］をクリック

「FOMA PC設定ソフト」が起動します。

- このまま各種設定を始められます。

おしらせ

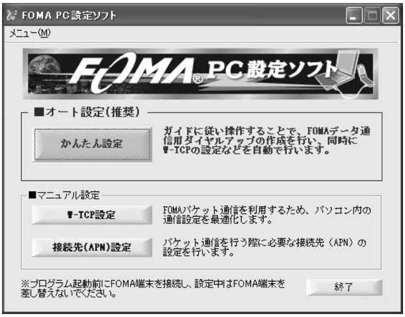
- 既に「FOMA PC設定ソフト」や旧「W-TCP設定ソフト」、旧「FOMA データ通信設定ソフト」がインストールされている場合は、インストールを中断する画面が表示されます。［OK］をクリックし、これらソフトをアンインストールしてから「FOMA PC設定ソフト」をインストールしてください。
- インストールの途中で［キャンセル］や［いいえ］をクリックしたときは、インストール画面の説明に従って［はい］または［いいえ］をクリックしてください。

かんたん設定でパケット通信を設定する

例 Windows XP の場合

1 ［スタート］→「すべてのプログラム」（Windows XP以外の場合は、「プログラム」）→「FOMA PC設定ソフト」→「FOMA PC設定ソフト」をクリック

「FOMA PC設定ソフト」が起動します。

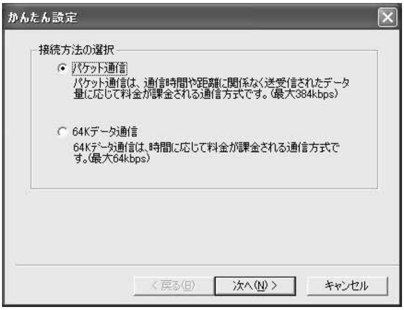


mopera U / mopera を利用する場合

・その他のプロバイダの場合 ☛P405

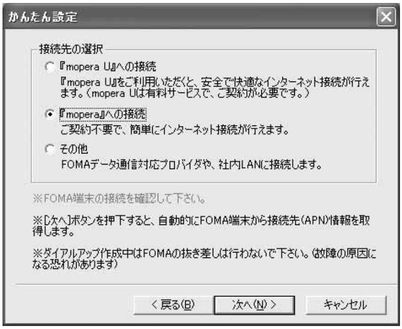
1 FOMA PC設定ソフトを起動▶［かんたん設定］をクリック

2 「パケット通信」を選択▶［次へ］をクリック



3 「『mopera U』への接続」または「『mopera』への接続」を選択▶［次へ］をクリック

・mopera Uはお申し込みが必要な有料サービスです。mopera Uを選択すると、ご契約の確認メッセージが表示されます。



4 FOMA端末設定取得画面で［OK］をクリック

FOMA端末から「接続先（APN）情報」を取得します。しばらくお待ちください。

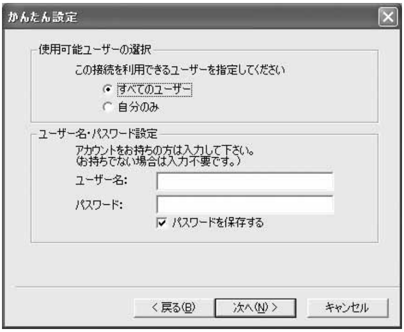
5 任意の接続名を入力▶［次へ］をクリック

・次の記号（半角文字）は入力できません。
¥ /: ＊ ?! < > ｜ ”



6 ［次へ］をクリック

- 「ユーザー名」「パスワード」は空欄でもかまいません。
- ご使用のOSがWindows XP、2000の場合は、使用可能なユーザを選択してください。Windows Me、98の場合は、使用可能ユーザの選択は表示されません。

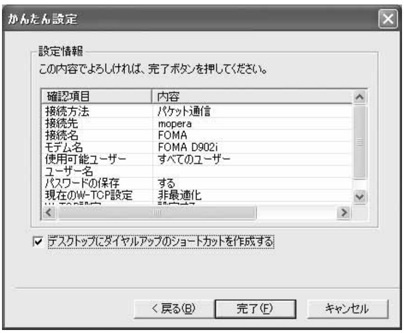


7 「最適化を行う」が選択されていることを確認して［次へ］をクリック

- 既に最適化されている場合、この画面は表示されません。



8 設定情報を確認して［完了］をクリック



9 ［OK］をクリック

設定変更を有効にするためには、パソコンを再起動します。再起動をする旨の画面が表示された場合は［はい］をクリックしてください。

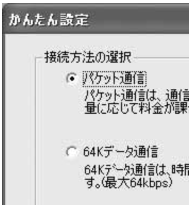
- 既にW-TCP設定が最適化されている場合は、再起動する必要はありません。
- 通信を実行する ☛P408

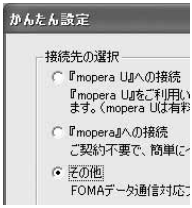
その他のプロバイダを利用する場合

- mopera U / moperaの場合 ☛P404

1 「かんたん設定でパケット通信を設定する」の「mopera U / moperaを利用する場合」の操作1～4を行う ☛P404

- 操作3の接続先は「その他」を選択します。





2 任意の接続名を入力 ▶ ［接続先（APN）設定］をクリック

- 次の記号（半角文字）は入力できません。
  ￥/:＊?!<>｜”



■ 高度な設定（TCP/IPの設定）：
［詳細情報の設定］をクリックすると「IPアドレス」「ネームサーバー」の設定画面が表示されます。ご加入のプロバイダや、社内LANなどのダイヤルアップ情報として入力が必要な場合は、入力指示情報を基に各種アドレスを登録してください。

3 接続先（APN）を設定

お買い上げ時、cid1には「mopera.ne.jp」が、cid3には「mopera.net」が設定されています。cid2、4～10に接続先（APN）を登録してください。

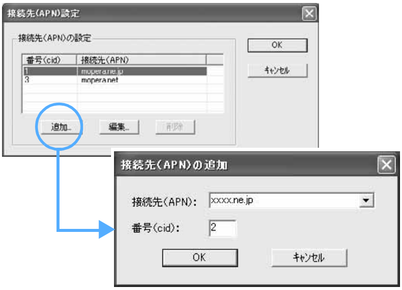
①［追加］をクリック

「接続先（APN）の追加」画面が表示されます。

②「接続先（APN）」にご利用のプロバイダのFOMAパケット網に対応した接続先名（APN）を正しく入力▶［OK］をクリック

「接続先（APN）設定」画面に戻ります。

- 「接続先（APN）」には半角文字で、英数字、ハイフン（-）、ピリオド（.）のみ入力できます。



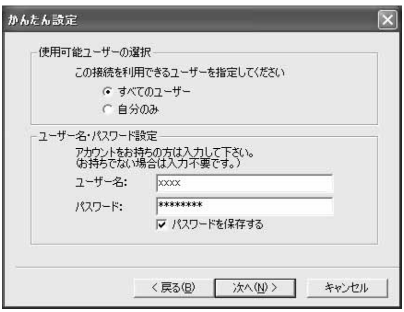
4 ［OK］をクリック

操作２の画面に戻ります。「接続先（APN）の選択」には、操作３で設定した「接続先（APN）」が表示されています。

5 「接続先（APN）の選択」の接続先名（APN）を確認して［次へ］をクリック

6 ユーザー名・パスワードを入力▶［次へ］をクリック

- 「ユーザー名」「パスワード」には、プロバイダから提供された各種情報を、大文字・小文字などに注意し、正確に入力してください。
- Windows XP、2000の場合は、使用可能なユーザを選択してください。Windows Me、98の場合は、使用可能ユーザの選択は表示されません。



7 「最適化を行う」が選択されていることを確認して［次へ］をクリック

パケット通信に必要なW-TCP設定を最適化します。

- 既に最適化されている場合には、この画面は表示されません。



8 設定情報を確認して［完了］をクリック



9 ［OK］をクリック

設定変更を有効にするためには、パソコンを再起動します。再起動をする旨の画面が表示された場合は［はい］をクリックしてください。

- 既にW-TCP設定が最適化されている場合は、再起動する必要はありません。
- 通信を実行する☛P408

かんたん設定で64Kデータ通信を設定する

例 Windows XPの場合

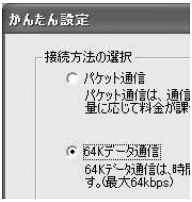
mopera U / moperaを利用する場合

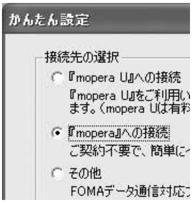
- その他のプロバイダの場合☛P407

1 「かんたん設定でパケット通信を設定する」の「mopera U / mopera を利用する場合」の操作 1 ～ 3 を行う ☛P404

☛P404

- 操作 2 の接続方法は「64K データ通信」を選択します。





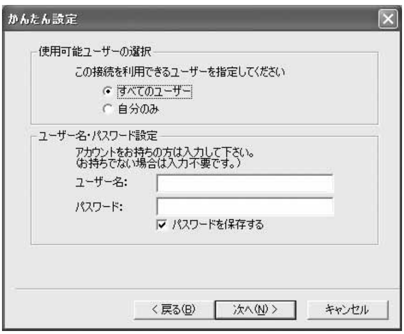
2 任意の接続名の入力とモデムを選択 ▶［次へ］をクリック

- 次の記号（半角文字）は入力できません。
  ¥ /: ＊ ?!<> ｜ ”
- 「モデムの選択」が「FOMA D902i」に設定されていることを確認します。

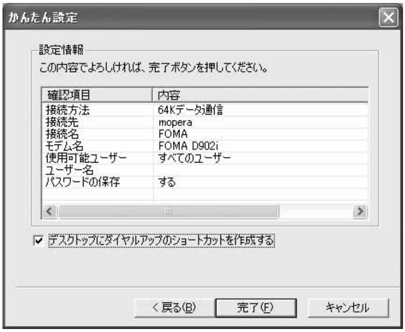


3 ［次へ］をクリック

- 「ユーザー名」「パスワード」については空欄でもかまいません。
- Windows XP、2000 の場合は、使用可能なユーザを選択してください。Windows Me、98 の場合は、使用可能ユーザの選択は表示されません。



4 設定情報を確認して［完了］をクリック



5 ［OK］をクリック

- 通信を実行する ☛P408

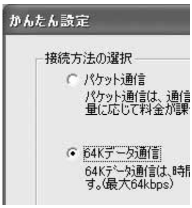
その他のプロバイダを利用する場合

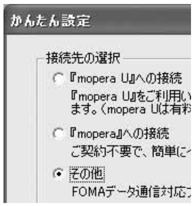
- mopera U / mopera の場合 ☛P406

1 「かんたん設定でパケット通信を設定する」の「mopera U / mopera を利用する場合」の操作 1 ～ 3 を行う ☛P404

☛P404

- 操作 2 の接続方法は「64K データ通信」、操作 3 の接続先は「その他」を選択します。





2 各項目を設定 ▶［次へ］をクリック

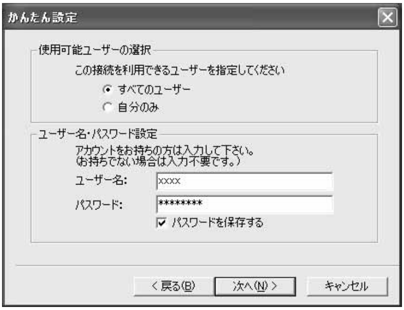
- 次の項目を登録します。
  - 接続名　　　：任意
  - モデムの選択：FOMA D902i
  - 電話番号　　：プロバイダ情報を基に入力



■ 高度な設定（TCP/IP の設定）：
［詳細情報の設定］をクリックすると「IP アドレス」「ネームサーバー」の設定画面が表示されます。ご加入のプロバイダや、社内 LAN などのダイヤルアップ情報として入力が必要な場合は、入力指示情報を基に各種アドレスを登録してください。

3 ユーザー名・パスワードを入力 ▶［次へ］をクリック

- 「ユーザー名」「パスワード」には、プロバイダから提供された各種情報を、大文字・小文字などに注意し、正確に入力してください。
- ご使用の OS が WindowsXP、2000 の場合は、使用可能なユーザを選択してください。Windows Me、98 の場合は、使用可能ユーザの選択は表示されません。



4 設定情報を確認して［完了］をクリック



5［OK］をクリック

- 通信を実行する ☛P408

通信を実行する

FOMA PC設定ソフトで設定した通信の実行や切断について説明します。

1 FOMA 端末とパソコンを接続する ☛P400

2 デスクトップの接続アイコンをダブルクリック



通信を開始します。
- アイコンはOSによって異なります。

- デスクトップに接続アイコンを作成しなかった場合は、スタートメニューから起動します。

■ Windows XP のスタートメニューから起動：
① ［スタート］→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」をクリック
② 接続アイコンをダブルクリック

■ Windows 2000、Me、98 のスタートメニューから起動：
① ［スタート］→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」（Me、98 の場合は「ダイヤルアップネットワーク」）をクリック
② 接続アイコンをダブルクリック

3 接続を実行

- mopera U / mopera を選択した場合は「ユーザー名」「パスワード」については空欄でもかまいません。
- ご加入のプロバイダなどの指示により必要な場合は、入力指示情報を基に「ユーザー名」「パスワード」を入力して［ダイヤル］（Me、98 の場合は［接続］）をクリックします。
- OS によっては、接続完了画面が表示されることがあります。[OK] をクリックしてください。



おしらせ

- FOMA 端末には、パケット通信を実行すると発信中画面、64K データ通信を実行すると呼出中画面がそれぞれ表示され、接続すると次の画面が表示されます。





- パソコンに表示される通信速度は、実際の通信速度とは異なる場合があります。
- データ通信を実行する場合、アイコン作成時の FOMA 端末を接続した場合のみ有効です。
- D902i 以外の FOMA 端末を接続する場合は、ご利用になる FOMA 端末の通信設定ファイルをインストールする必要があります。

切断するには

ブラウザを終了しただけでは切断されない場合があります。確実に切断するには、次の操作を行ってください。

1 タスクトレイの をクリック

- Windows Me、98 の場合はダブルクリックします。

2 ［切断］をクリック



パケット通信の設定を最適化する

「W-TCP 設定」を利用してパソコンのパケット通信の設定を FOMA ネットワーク用に最適化する方法と最適化を解除する方法について説明します。
「W-TCP 設定」とは FOMA ネットワークでパケット通信を行う際に、TCP/IP の伝送能力を最適化するための「TCP パラメータ設定ツール」です。FOMA 端末の通信性能を最大限に活用するには、この通信設定が必要です。

Windows XP の場合

ダイヤルアップごとに最適化できます。

1 「FOMA PC設定ソフト」を起動▶［W-TCP設定］をクリック☛P404

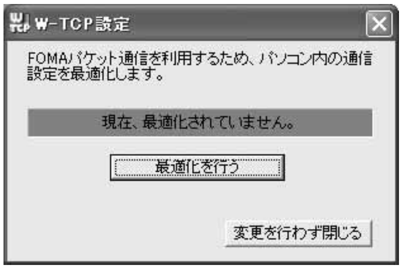
■ **タスクトレイから起動： をクリック**

2 次の操作を行う

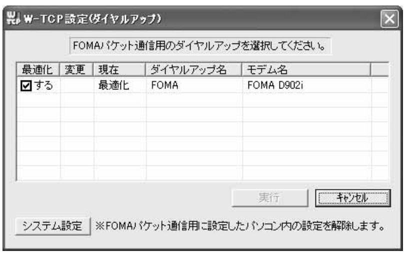
■ **システム設定が最適化されていないとき：**

① **W-TCP 設定画面で［最適化を行う］をクリック**

② **最適化するダイヤルアップを選択▶［実行］をクリック**
システム設定とダイヤルアップ設定のそれぞれの最適化が実行されます。



■ **システム設定が最適化されているとき：**
次の画面が表示されます。内容を変更する場合は設定を行ってください。



■ **最適化を解除するとき：**

① **「W-TCP 設定（ダイヤルアップ）」画面で［システム設定］をクリック**
W-TCP 設定画面が表示されます。

② **［最適化を解除する］をクリック**

つづく

3 画面に従ってパソコンを再起動

- 設定した内容は再起動後に有効になります。

Windows 2000、Me、98 の場合

1 「FOMA PC設定ソフト」を起動▶[W-TCP設定]をクリック☛P404

■ **タスクトレイから起動：をクリック**

2 次の操作を行う

■ **システム設定が最適化されていないとき：[最適化を行う]をクリック**

■ **最適化されているシステム設定を解除するとき：[最適化を解除する]をクリック**

3 画面に従ってパソコンを再起動する

- 設定した内容は再起動後に有効になります。

接続先（APN）を設定する

パケット通信を行う場合の接続先（APN）を設定します。

接続先（APN）は最大10件設定でき、登録番号（cid）の1～10に登録して管理します。

お買い上げ時、cid1 には「mopera.ne.jp」、cid3 には「mopera.net」が設定されています。

- 設定を行う前に FOMA 端末とパソコンが正しく接続されていることを確認してください。☛P401
- mopera U / mopera 以外の接続先（APN）については、プロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。

1 「FOMA PC設定ソフト」を起動▶［接続先（APN）設定］をクリック☛P404

FOMA 端末設定取得画面が表示されます。

2 ［OK］をクリック

FOMA 端末に登録されている「接続先（APN）情報」を読み込みます。

3 接続先（APN）の設定を行う



■ **接続先（APN）を追加する：[追加]をクリック**

■ **登録済みの接続先（APN）を編集または修正する：対象の接続先（APN）を一覧から選択▶［編集］をクリック**

■ **登録済みの接続先（APN）を削除する：対象の接続先（APN）を一覧から選択▶［削除］をクリック**

- cid1 と cid3 に登録されている接続先は削除できません。（cid 3を選択して「削除」をクリックしても、実際には削除されず、「mopera.net」に戻ります。）

■ **ファイルへ保存する：「ファイル」→「名前を付けて保存」または「上書き保存」をクリック**

- FOMA 端末に登録された接続先（APN）設定のバックアップを取ったり、編集中の接続先（APN）設定を保存するときに利用します。

■ **ファイルから読み込む：「ファイル」→「開く」をクリック**

- パソコンに保存された接続先（APN）設定を再編集したり、FOMA 端末に書き込んだりするときに利用します。

■ **FOMA 端末から接続先（APN）情報を読み込む：「ファイル」→「FOMA 端末から設定を取得」をクリック**

FOMA 端末に手動でアクセスし、登録された接続先（APN）設定を読み込みます。

■ **FOMA 端末へ接続先（APN）情報を書き込む：［FOMA 端末へ設定を書き込む］をクリック**

表示されている接続先（APN）設定が FOMA 端末に書き込まれます。

■ **ダイヤルアップを作成する：**

① **追加・編集された接続先（APN）を選択▶［ダイヤルアップ作成］をクリック**

「FOMA 端末設定書き込み」画面が表示されます。

② **［はい］をクリック**

FOMA 端末へ接続先（APN）情報の書き込み終了後、「パケット通信用ダイヤルアップの作成」画面が表示されます。

③ **任意の接続名を入力▶[アカウント・パスワードの設定]をクリック**

④ **ユーザー名とパスワードを入力▶[OK]をクリック**

- mopera U / mopera の場合は空欄でもかまいません。
- Windows XP、2000の場合は、使用可能ユーザを選択してください。
- ご利用のプロバイダより、IP および DNS 情報の設定が指示されている場合は、「パケット通信用ダイヤルアップの作成」画面で［詳細情報の設定］をクリックし、必要な情報を登録後、[OK] をクリックしてください。

⑤［FOMA 端末へ設定を書き込む］をクリック
上書きするかどうかの確認画面が表示されます。
⑥［はい］をクリック

おしらせ

- 接続先（APN）設定は FOMA 端末に登録される情報のため、異なる FOMA 端末（故障修理により交換された端末など）を接続する場合は、APN を登録し直してください。
- パソコンに登録されている接続先（APN）を継続利用する場合は、同じ APN の登録番号（cid）を FOMA 端末に登録してください。
- 通信設定ファイルの確認で FOMA 端末が COM20 より大きい番号として認識されている場合は、APN 設定の際、APN の情報の取得・書き込みができません。その場合は Windows 標準添付の「ハイパーターミナル」を使って設定します。☛P412

FOMA PC設定ソフトをアンインストールする

操作の前に、必ず「インストール・アンインストール前の注意点」をお読みください。☛P400

アンインストールを実行する前に

タスクトレイの［アイコン］を右クリックし、「常駐させない」をクリックして、「W-TCP 設定」の常駐を解除してください。

アンインストールする

例 Windows XP の場合

1 ［スタート］→「コントロールパネル」→［プログラムの追加と削除］アイコンをクリック

■ **Windows 2000、Me、98 の場合：**
①［スタート］→「設定」→「コントロールパネル」をクリック
②［アプリケーションの追加と削除］アイコンをダブルクリック

2 「NTT DoCoMo FOMA PC設定ソフト」を選択▶［変更と削除］をクリック

3 削除するプログラム名を確認して［はい］をクリック

FOMA PC設定ソフトのアンインストールを開始します。

■ **「W-TCP 最適化」の解除：**
W-TCP が最適化されている場合は確認画面が表示されます。
- 通常は［はい］をクリックして、最適化を解除してください。
- 「W-TCP 最適化」の解除は、パソコンの再起動後に行われます。

4 ［OK］をクリック

FOMA PC設定ソフトを利用しないで通信する

FOMA PC設定ソフトを使わずに、パケット通信／64K データ通信のダイヤルアップネットワークの設定を行う方法について説明します。

設定操作の流れ

通信設定ファイルのインストール ☛P401
パソコンと FOMA 端末の接続 ☛P400

↓

接続先（APN）の設定
（64K データ通信の場合、パケット通信の接続先が mopera U / mopera の場合は、設定不要）

↓

発信者番号通知／非通知の設定 ☛P413
（必要に応じて設定）

↓

その他の設定（AT コマンド）☛P421
（必要に応じて設定）

↓

ダイヤルアップネットワークの設定

ご使用の OS ＼ 設定	接続先	TCP/IP
Windows XP	P413	P414
Windows 2000	P415	P417
Windows Me	P418	P418
Windows 98	P419	P419

- 設定内容の詳細については、プロバイダやネットワーク管理者にお問い合わせください。

↓

接続 ☛P420（切断 ☛P420）

パケット通信の接続先（APN）を設定する

設定を行うためには、ATコマンドを入力するための通信ソフトが必要です。ここではWindows標準添付の「ハイパーターミナル」を使った設定方法を説明します。

お買い上げ時　cid1：mopera.ne.jp
cid3：mopera.net
cid2, cid4 ～ 10：未登録

例 Windows XPの場合

1 パソコンとFOMA端末を接続する
☛P400

2 ［スタート］→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」をクリック ▶「ハイパーターミナル」をクリック（Windows 98ではさらに［Hypertrm］アイコンをダブルクリック）

- Windows XP以外の場合は、「すべてのプログラム」が「プログラム」と表示されます。

3 「名前」に接続先名など任意の名前を入力 ▶［OK］をクリック



4 「電話番号」に実在しない電話番号（「0」など）を仮入力し、「接続方法」から「FOMA D902i」を選択 ▶［OK］をクリック

- 市外局番は接続先（APN）の設定とは関係ありませんので、変更不要です。

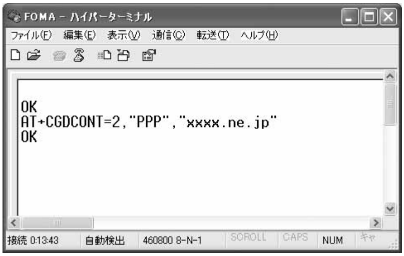


5 接続画面が表示されたら［キャンセル］をクリック

6 接続先（APN）を入力 ▶ ⏎ を押す

- 「AT+CGDCONT＝＜cid＞,"PPP","APN"」の形式で入力します。

＜cid＞：2, 4～10の任意の番号を入力します。
"PPP"：そのまま"PPP"と入力します。
"APN"：接続先（APN）を"　"で囲んで入力します。



「OK」と表示されれば、接続先（APN）の設定は完了です。

■ **接続先（APN）設定をリセットするとき：**

AT+CGDCONT= ⏎：
すべてのcidをリセットします。
- ＜cid＞＝1と3はお買い上げ時の設定に戻り、＜cid＞＝2, 4～10の設定は未登録になります。

AT+CGDCONT=＜cid＞⏎：
特定のcidをリセットします。

■ **接続先（APN）設定を確認するとき：AT+CGDCONT? ⏎**
- 詳細☛P426

■ **ATコマンドを入力しても画面に表示されないとき：ATE1 ⏎**
- 詳細☛P424

7 「OK」と表示されていることを確認し、「ファイル」→「ハイパーターミナルの終了」をクリック

- 『“XXX”と名前付けされた接続を保存しますか?』と表示後に「いいえ」をクリックします。

接続先(APN)と登録番号(cid)について

パケット通信の接続先(APN)は、FOMA端末の登録番号cid1～10に設定できます。お買い上げ時、cid1には「mopera.ne.jp」、cid3 には「mopera.net」が登録されています。その他のプロバイダや社内LANなどに接続する場合は、cid2,4～10 に接続先(APN)を登録してください。

- 接続先(APN)については、プロバイダまたはネットワーク管理者にお問い合わせください。
- 接続先の設定は、パケット通信用の電話帳登録と考えられます。接続先の設定項目を FOMA 端末電話帳と比較すると、次のようになります。

接続先の設定項目	FOMA 端末電話帳の登録項目
登録番号(cid)	登録番号(メモリ番号)
APN	相手の電話番号

- 登録した cid はダイヤルアップ接続設定での接続番号となります。

発信者番号の通知/非通知を設定する

発信者番号はお客様の大切な情報なので、通知する際には十分にご注意ください。

- mopera U / moperaをご利用になる場合は、「通知」に設定します。

お買い上げ時 設定なし

1 「パケット通信の接続先(APN)を設定する」の操作 1 ～ 5 を行う ☛P412

2 パケット通信時の発信者番号の通知(186)/非通知(184)を設定

「AT * DGPIR= < n >」の形式で入力します。

AT * DGPIR=1 ⏎:
パケット通信確立時、接続先(APN)に「184」を付けて接続します。

AT * DGPIR=2 ⏎:
パケット通信確立時、接続先(APN)に「186」を付けて接続します。

3 「OK」と表示されていることを確認し、[ファイル]→「ハイパーターミナルの終了」をクリック

- 『“XXX”と名前付けされた接続を保存しますか?』と表示後に「いいえ」をクリックします。

■ ダイヤルアップネットワークでの通知/非通知設定について

ダイヤルアップネットワークの設定でも、接続先の番号に「186」(通知)/「184」(非通知)を付けられます。
AT * DGPIR コマンド、ダイヤルアップネットワークの設定の両方で「186」(通知)/「184」(非通知)の設定を行った場合、発信者番号の通知/非通知は次のようになります。

AT*DGPIRコマンドによる通知/非通知設定 ＼ ダイヤルアップネットワークの設定(< cid >=1の場合)	設定なし	非通知	通知
* 99 *** 1#	通知	非通知	通知
184 * 99 *** 1#	非通知		
186 * 99 *** 1#	通知		

- AT * DGPIR コマンドによる通知/非通知設定を「設定なし」に戻すには、「AT * DGPIR=0」と入力してください。

Windows XP で設定する

「ネットワークの接続ウィザード」を使用して、接続先と TCP/IP プロトコルの両方を設定します。

接続先を設定する

1 [スタート]→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」をクリック

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

2 「ネットワークタスク」の「新しい接続を作成する」をクリック

「新しい接続ウィザード」画面が表示されます。

3 [次へ] をクリック

ネットワーク接続の種類を選択する画面が表示されます。

4 「インターネットに接続する」を選択 ▶ [次へ] をクリック

準備画面が表示されます。

5 「接続を手動でセットアップする」を選択 ▶ [次へ] をクリック

インターネット接続画面が表示されます。

6 「ダイヤルアップモデムを使用して接続する」を選択 ▶ [次へ] をクリック

デバイスの選択画面が表示されます。

- インストールされているモデムが1台しかない場合、デバイスの選択画面は表示されません。操作 8 へ進みます。

7 「モデム－FOMA D902i(COMx)※1」を選択 ▶ ［次へ］をクリック

※1：COMxはお使いのパソコンによって異なります。

- 「モデム－FOMA D902i（COMx）」のみチェックが入っていることを確認してください。



8 「ISP名」に任意の接続名を入力 ▶ ［次へ］をクリック



9 「電話番号」に接続先の番号（半角文字）を入力 ▶ ［次へ］をクリック

■ パケット通信の場合：

＊99＊＊＊<cid>＃を入力します。

- <cid>には、「パケット通信の接続先（APN）を設定する」で登録したcid番号を入力します。mopera Uは＊99＊＊＊3＃、moperaは＊99＊＊＊1＃となります。

■ 64Kデータ通信の場合：

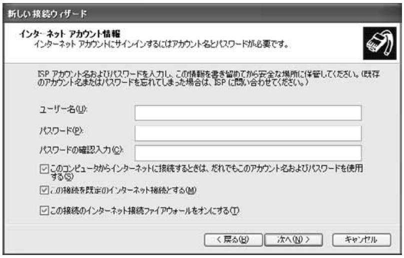
接続先の電話番号を入力します。

- mopera Uは＊8701、moperaは＊9601を入力します。



10 「ユーザー名」「パスワード」「パスワードの確認入力」を入力 ▶ 各項目を以下のように設定 ▶ ［次へ］をクリック

- 接続先がmopera U / moperaの場合は、「ユーザー名」「パスワード」「パスワードの確認入力」については空欄でもかまいません。各項目を画面のように設定し［次へ］をクリックします。



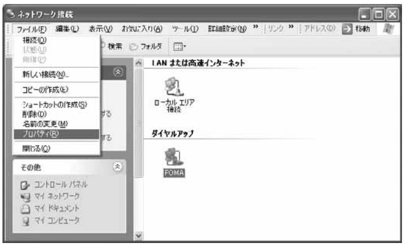
11 ［完了］をクリック

12 設定内容を確認して［キャンセル］をクリック

- ここではすぐに接続せずに、設定の確認だけを行います。

TCP/IPプロトコルを設定する

1 作成した接続先アイコンを選択 ▶ 「ファイル」→「プロパティ」をクリック



2 ［全般］タブの各項目の設定を確認

- 複数のモデムがインストールされている場合は、「接続方法」の「モデム－ FOMA D902i（COMx）※1」を選択します。
  ※1：COMx はお使いのパソコンによって異なります。
- 「モデム－FOMA D902i（COMx）」のみチェックが入っていることを確認してください。
- 「ダイヤル情報を使う」を非選択（□）にします。



3 ［ネットワーク］タブをクリック ▶ 各項目の設定を確認

- 「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」は「PPP:Windows 95/98/NT4/2000, Internet」に設定します。
- 「この接続は次の項目を使用します」は、「インターネット プロトコル（TCP/IP）」だけを選択します。「QoS パケットスケジューラ」は設定変更できませんので、そのままにしてください。



4 ［設定］をクリック

5 すべての項目を非選択（□）にして［OK］をクリック

接続先のプロパティ画面に戻ります。



6 ［OK］をクリック

Windows 2000で設定する

「ネットワークの接続ウィザード」を使用して、接続先と TCP/IP プロトコルの両方を設定します。

接続先を設定する

1 ［スタート］→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」をクリック

「ネットワークとダイヤルアップ接続」画面が表示されます。

2 ［新しい接続の作成］アイコンをダブルクリック

「所在地情報」画面が表示されます。

- この画面は［新しい接続の作成］アイコンを初めてダブルクリックしたときに表示されます。2 回目以降の場合は、操作 5 へ進みます。

3 「市外局番」を入力 ▶ ［OK］をクリック

「電話とモデムのオプション」画面が表示されます。

4 ［OK］をクリック

「ネットワークの接続ウィザード」画面が表示されます。

5 ［次へ］をクリック

ネットワーク接続の種類を選択する画面が表示されます。

6 「インターネットにダイヤルアップ接続する」を選択 ▶ ［次へ］をクリック

「インターネット接続ウィザード」の開始画面が表示されます。

7 「インターネット接続を手動で設定するか、またはローカルエリアネットワーク（LAN）を使って接続します」を選択▶［次へ］をクリック

インターネット接続の設定選択画面が表示されます。

8 「電話回線とモデムを使ってインターネットに接続します」を選択▶［次へ］をクリック

モデムの選択画面が表示されます。

- 複数のモデムがインストールされていない場合、この画面は表示されません。操作10に進みます。

9 「インターネットへの接続に使うモデムを選択する」が「FOMA D902i」に設定されていることを確認して［次へ］をクリック

インターネットアカウントの接続情報画面が表示されます。

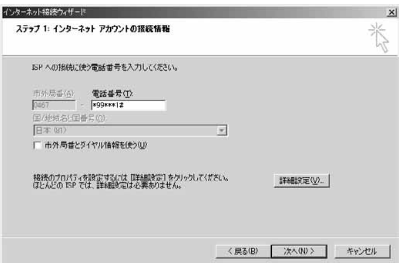
- 「FOMA D902i」に設定されていない場合は、「FOMA D902i」に設定してください。

10 「電話番号」に接続先の番号（半角文字）を入力▶［詳細設定］をクリック

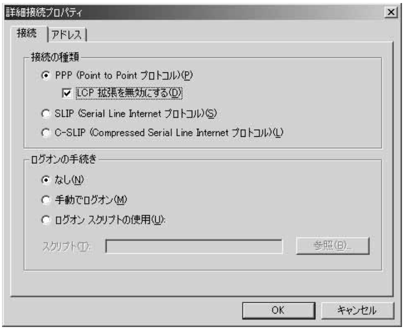
- 「市外局番とダイヤル情報を使う」を非選択（□）にします。

■ パケット通信の場合：
＊99＊＊＊< cid >#を入力します。
- < cid >には、「パケット通信の接続先（APN）を設定する」で登録したcid番号を入力します。mopera Uは＊99＊＊＊3#、moperaは＊99＊＊＊1#となります。

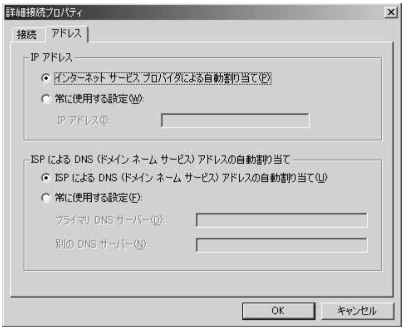
■ 64Kデータ通信の場合：
接続先の電話番号を入力します。
- mopera Uは＊8701、moperaは＊9601を入力します。



11 ［接続］タブの各項目を以下のように設定



12 ［アドレス］タブをクリック▶各項目を以下のように設定



13 ［OK］をクリック

インターネットアカウントの接続情報画面に戻ります。

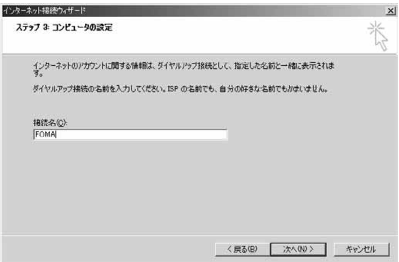
14 ［次へ］をクリック

インターネットアカウントのログオン情報画面が表示されます。

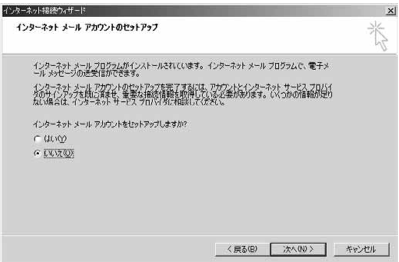
15 「ユーザー名」と「パスワード」を入力▶［次へ］をクリック

- 接続先がmopera U / moperaの場合は、「ユーザー名」「パスワード」については空欄でもかまいません。入力されていないことを確認する画面が表示されたら、［はい］をクリックします。

16 「接続名」に任意の接続名を入力▶［次へ］をクリック



17 「いいえ」を選択 ▶［次へ］をクリック

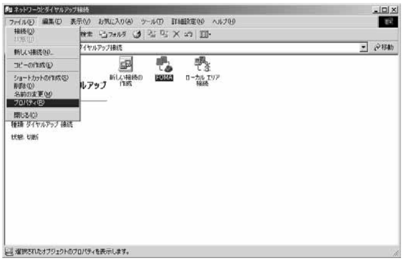


18 ［完了］をクリック

「ネットワークとダイヤルアップ接続」画面に戻ります。

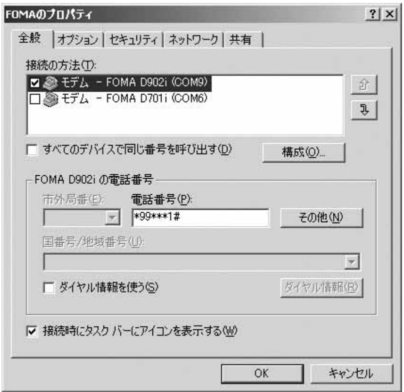
TCP/IP プロトコルを設定する

1 作成した接続先アイコンを選択 ▶「ファイル」→「プロパティ」をクリック



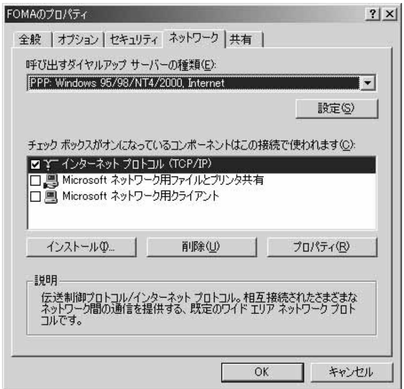
2 ［全般］タブの各項目の設定を確認

- 複数のモデムがインストールされている場合は、「接続の方法」の「モデム－ FOMA D902i (COMx)※1」を選択します。
  モデムを変更した場合は、「電話番号」の各項目が初期化されますので、再度接続先電話番号を入力してください。
  ※ 1：COMx はお使いのパソコンによって異なります。
- 「モデム－ FOMA D902i (COMx)」のみチェックが入っていることを確認してください。
- 「ダイヤル情報を使う」を非選択（□）にします。



3 ［ネットワーク］タブをクリック ▶ 各項目の設定を確認

- 「呼び出すダイヤルアップサーバーの種類」は「PPP: Windows 95/98/NT4/2000, Internet」に設定します。
- コンポーネントは「インターネット プロトコル (TCP/IP)」だけを選択します。



4 ［設定］をクリック

5 すべての項目を非選択（□）にして［OK］をクリック

接続先のプロパティ画面に戻ります。



6 ［OK］をクリック

Windows Me で設定する

接続先を設定する

1 ［スタート］→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ダイヤルアップネットワーク」をクリック

「ダイヤルアップネットワークへようこそ」画面が表示されます。

- この画面は「ダイヤルアップネットワーク」を初めて選択したときに表示されます。2 回目以降の場合は、操作 3 へ進みます。

2 ［次へ］をクリック

「ダイヤルアップネットワーク」画面が表示されます。

3 ［新しい接続］アイコンをダブルクリック

4 「接続名」に任意の接続名を入力 ▶［次へ］をクリック

- 「モデムの選択」が「FOMA D902i」に設定されていることを確認してください。設定されていない場合は、「FOMA D902i」に設定します。



5 接続先の番号（半角文字）を入力 ▶［次へ］をクリック

■ **パケット通信の場合：**

＊99＊＊＊< cid >＃を入力します。

- < cid >には、「パケット通信の接続先（APN）を設定する」で登録したcid番号を入力します。mopera Uは＊99＊＊＊3＃、moperaは＊99＊＊＊1＃となります。

■ **64K データ通信の場合：**

接続先の電話番号を入力します。

- mopera Uは＊8701、moperaは＊9601を入力します。
- 「市外局番」には何も入力しません。



6 接続先名を確認 ▶［完了］をクリック

TCP/IP プロトコルを設定する

1 作成した接続先アイコンを選択 ▶「ファイル」→「プロパティ」をクリック



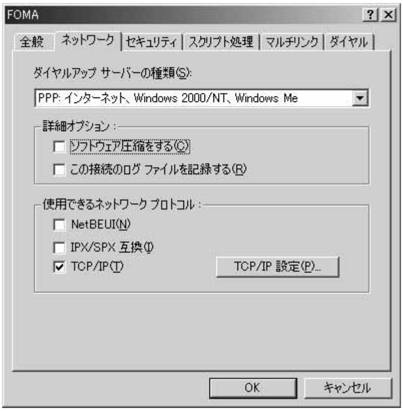
2 ［全般］タブの各項目の設定を確認

- 「市外局番とダイヤルのプロパティを使う」を非選択（□）にします。
- 「接続方法」が「FOMA D902i」に設定されていることを確認してください。設定されていない場合は、「FOMA D902i」に設定します。



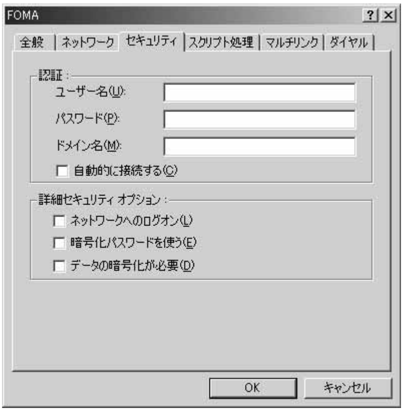
3 [ネットワーク] タブをクリック ▶ 各項目の設定を確認

- 「ダイヤルアップサーバーの種類」は「PPP: インターネット、Windows 2000/NT、Windows Me」に設定します。
- 「詳細オプション」はすべて非選択（☐）にします。
- 「使用できるネットワーク プロトコル」は「TCP/IP」だけを選択します。



4 [セキュリティ] タブをクリック ▶「ユーザー名」と「パスワード」を入力し、[OK] をクリック

- 接続先が mopera U / mopera の場合は、「ユーザー名」「パスワード」については空欄でもかまいません。



Windows 98 で設定する

接続先を設定する

Windows Me の接続先設定と同じです。☛P418

TCP/IP プロトコルを設定する

1 「Windows Me で設定する」の「TCP/IP プロトコルを設定する」の操作 1 ～ 2 を行う ☛P418

2 [サーバーの種類] タブをクリック ▶ 各項目の設定を確認

- 「ダイヤルアップサーバーの種類」は、「PPP: インターネット、Windows NT Server、Windows 98」に設定します。
- 「使用できるネットワーク プロトコル」は「TCP/IP」だけを選択します。



3 [OK] をクリック

ダイヤルアップ接続する

パケット通信／64Kデータ通信のダイヤルアップ接続を行う方法について説明します。

例 Windows XP の場合

1 FOMA 端末とパソコンを接続する
☛P400

2 ［スタート］→「すべてのプログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワーク接続」をクリック

「ネットワーク接続」画面が表示されます。

- Windows 2000、Me、98 の場合は、［スタート］→「プログラム」→「アクセサリ」→「通信」→「ネットワークとダイヤルアップ接続」（Me、98 の場合は「ダイヤルアップネットワーク」）の順にクリックします。

3 接続先のアイコンをダブルクリック

4 各項目を確認して［ダイヤル］をクリック

- Windows Me、98 の場合は、各項目を確認して、[接続] をクリックします。
- 「ダイヤル」または「電話番号」には、ダイヤルアップネットワークに設定した接続先の番号が表示されます。
- 接続先がmopera U / moperaの場合は、「ユーザー名」「パスワード」については空欄でもかまいません。



切断するには

ブラウザを終了しただけでは切断されない場合があります。確実に切断するには、次の操作を行ってください。

1 タスクトレイのをクリック

接続の画面が表示されます。

- Windows Me、98 の場合はダブルクリックします。

2 ［切断］をクリック



AT コマンド

AT コマンドとは、パソコンで FOMA 端末の各機能を設定するためのコマンド（命令）です。
FOMA 端末は、AT コマンドに準拠しさらに拡張コマンドの一部や独自の AT コマンドをサポートしています。

AT コマンドについて

■ AT コマンドの入力形式

AT コマンドは、コマンドの先頭に「AT」を付けて入力します。半角英数字で入力してください。次に入力例を示します。

ATD ＊ 99 ＊＊＊ 1#↵

コマンド　パラメータ　Enter キーを押します

AT コマンドはコマンドに続くパラメータ（数字や記号）を含めて、1 行で入力します。1 行とは最初の文字から↵を押した直前までの文字のことで、160 文字（「AT」含む）まで入力できます。

■ AT コマンドの入力モード

AT コマンドで FOMA 端末を操作する場合は、パソコンをターミナルモードにしてください。
ターミナルモードとは、パソコンを 1 台の通信端末（ターミナル）のように動作させるモードです。キーボードから入力した文字が通信ポートに接続されている機器や回線に送られます。

- オフラインモード
  FOMA 端末が待受の状態です。通常 AT コマンドで FOMA 端末を操作する場合は、この状態で行います。
- オンラインデータモード
  FOMA 端末が通信中の状態です。この状態のときに AT コマンドを入力すると、送られてきた文字をそのまま通信先に送信して、通信先のモデムを誤動作させることがあります。通信中は AT コマンドを入力しないでください。
- オンラインコマンドモード
  FOMA 端末が通信中の状態でも、AT コマンドで FOMA 端末を操作できる状態です。その場合、通信先との接続を維持したまま AT コマンドを実行し、終了すると再び通信を続けられます。

オンラインデータモードとオンラインコマンドモードを切り替える

FOMA 端末をオンラインデータモードからオンラインコマンドモードに切り替えるには、次の方法があります。

- 「+++」コマンドまたは「S2」レジスタに設定したコードを入力します。
- 「AT&D1」に設定されているときに、RS-232C※1 の ER 信号を OFF にします。

オンラインコマンドモードからオンラインデータモードに切り替えるには、「ATO↵」と入力します。

※ 1：USB インタフェースにより、RS-232C の信号線がエミュレートされていますので、通信アプリケーションによる RS-232C の信号線制御が有効になります。

ATコマンド一覧

- ATコマンド入力時に、使用しているPCや通信ソフトのフォント設定により、「¥」を入力しても「\」と表示される場合があります。
- FOMA端末の電源を切らずに電池パックを取り外した場合、設定値が記録されないことがあります。
- ここで説明するのはFOMA D902i Modem Portで使用できるATコマンドです。

※1　：AT&Fコマンドで設定が初期化されます。
※2　：AT&WコマンドでFOMA端末に記憶でき、ATZコマンドで復元できます。
「なし」：表示コマンド、テストコマンドがないATコマンドです。
[　]　：省略できるパラメータです。

コマンド		概要・パラメータ					
AT%V		FOMA端末のバージョンを「Verx.xx」の形式で表示します。					
	例	設定	AT%V	表示	なし	テスト	なし
AT&C[n]		DTEへの回路CD信号の動作条件を選択します。 n=0: 回路CD信号を常にONにします。（パラメータ省略時） n=1: 回路CD信号は相手モデムの状態に従って変化します。（お買い上げ時）					
※1、※2	例	設定	AT&C1	表示	なし	テスト	なし
AT&D[n]		オンラインデータモードの場合に、DTEから受け取る回路ER信号がONからOFFに変わったときの動作を設定します。 n=0:ER信号の状態を無視します（常にON）。（パラメータ省略時） n=1:ER信号がONからOFFに変わるとオンラインコマンドモードになります。 n=2:ER信号がONからOFFに変わると回線を切断し、オフラインモードになります。（お買い上げ時）					
※1、※2	例	設定	AT&D1	表示	なし	テスト	なし
AT&E[n]		接続時の速度表示仕様を選択します。 ATXコマンドがn=0以外の場合に有効です。 n=0：無線区間通信速度を表示します。 n=1：パソコンとFOMA端末間の通信速度を表示します。(お買い上げ時)					
※1、※2	例	設定	AT&E1	表示	なし	テスト	なし
AT&F[0]		FOMA端末をお買い上げ時の状態に戻します。着信中に実行すると、着信には影響を与えずに、FOMA端末をお買い上げ時の状態に戻します。通信中は通信を切断してからお買い上げ時の状態に戻します。					
	例	設定	AT&F0	表示	なし	テスト	なし
AT&S[n]		FOMA端末の出力するDR信号の制御を設定します。 n=0: 常にONにします。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1: 回線接続時にDR信号をONにします。					
※1、※2	例	設定	AT&S0	表示	なし	テスト	なし
AT&W[0]		現在の設定値をFOMA端末に書き込みます。					
	例	設定	AT&W0	表示	なし	テスト	なし
AT＊DANTE		電波の強さ（受信レベル）を「＊DANTE:m」の形式で表示します。 m=0: 圏外です。　m=1～3:FOMA端末に表示されるアンテナの本数です。					
	例	設定	AT＊DANTE	表示	AT＊DANTE?	テスト	AT＊DANTE=?
AT＊DGANSM=n		パケット着信呼に対して、着信拒否、着信許可を設定します。 n=0: 着信拒否設定と着信許可設定をOFFにします。（お買い上げ時） n=1: 着信拒否設定をONにします。　n=2: 着信許可設定をONにします。					
	例	設定	AT＊DGANSM=0	表示	AT＊DGANSM?	テスト	AT＊DGANSM=?
AT＊DGAPL=n[,cid]		パケット着信呼に対して、着信を許可する接続先(APN)を設定します。APNは「+CGDCONT」で定義されたcidパラメータを使用します。 n=0:cidで定義されたAPNを着信許可リストへ追加します。 n=1:cidで定義されたAPNを着信許可リストから削除します。 cidパラメータを省略すると、すべてのcidを追加または削除します。					
	例	設定	AT＊DGAPL=0,1	表示	AT＊DGAPL?	テスト	AT＊DGAPL=?
AT＊DGARL=n[,cid]		パケット着信呼に対して、着信を拒否する接続先(APN)を設定します。APNは「+CGDCONT」で定義されたcidパラメータを使用します。 n=0:cidで定義されたAPNを着信拒否リストへ追加します。 n=1:cidで定義されたAPNを着信拒否リストから削除します。 cidパラメータを省略すると、すべてのcidを追加または削除します。					
	例	設定	AT＊DGARL=0,1	表示	AT＊DGARL?	テスト	AT＊DGARL=?

コマンド		概要・パラメータ					
AT＊DGPIR=n		パケット通信時の番号通知、非通知を設定します。発信時、着信時に有効です。 n=0:パケット通信確立時に、APNをそのまま使用します。（お買い上げ時） n=1:パケット通信確立時に、APNに「184」を付けます。 n=2:パケット通信確立時に、APNに「186」を付けます。					
	例	設定	AT＊DGPIR=0	表示	AT＊DGPIR?	テスト	AT＊DGPIR=?
AT＊DRPW		受信電力指標を「＊DRPW:m」の形式で表示します。m:0～75					
	例	設定	AT＊DRPW	表示	なし	テスト	AT＊DRPW=?
+++		FOMA 端末をオンラインデータモードからオンラインコマンドモードに切り替えます。エスケープガード区間は、1秒間の固定です。					
	例	設定	+++	表示	なし	テスト	なし
AT+CEER		直前の通信の切断理由を表示します。☛P426					
	例	設定	AT+CEER	表示	なし	テスト	AT+CEER=?
AT+CGDCONT		パケット通信時の接続先(APN)を設定します。☛P426					
AT+CGEQMIN		パケット通信確立時に、ネットワーク側から通知されるQoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準を登録します。☛P426					
AT+CGEQREQ		パケット通信の発信時にネットワークへ要求するQoS（サービス品質）を設定します。☛P427					
AT+CGMR		FOMA 端末のバージョンを16桁の数字で表示します。					
	例	設定	AT+CGMR	表示	なし	テスト	AT+CGMR=?
AT+CGREG=[n]		ネットワーク登録状態を通知するかどうかを設定します。通知される内容は、圏内または圏外です。 n=0:通知しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1:通知します。「+CGREG:n,stat」の形式で通知されます。 stat=0:圏外　stat=1:圏内(home)　stat=4:不明　stat=5:圏内(visitor)					
※1、※2	例	設定	AT+CGREG=1	表示	AT+CGREG?	テスト	AT+CGREG=?
AT+CGSN		FOMA 端末の製造番号を表示します。					
	例	設定	AT+CGSN	表示	なし	テスト	AT+CGSN=?
AT+CLIP=[n]		64Kデータ通信の着信時に、相手の発信者番号をパソコンに表示します。 n=0:表示しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1:表示します。 AT+CLIP?を入力すると、「+CLIP:n,m」が表示されます。 m=0:発信時に相手に発信者番号を通知しないネットワーク設定 m=1:発信時に相手に発信者番号を通知するネットワーク設定　m=2:不明					
※1、※2	例	設定	AT+CLIP=0	表示	AT+CLIP?	テスト	AT+CLIP=?
AT+CLIR=[n]		64Kデータ通信の発信時に、電話番号を相手に通知するかどうかを設定します。 n=0:サービス契約の設定に従います。（パラメータ省略時）　n=1:通知しません。 n=2:通知します。（お買い上げ時） AT+CLIR?を入力すると、「+CLIR:n,m」を表示します。 m=0:CLIRが起動していません。（常時通知）　m=1:CLIRが起動しています。（常時非通知） m=2:不明　m=3:CLIRテンポラリーモード（非通知デフォルト） m=4:CLIRテンポラリーモード（通知デフォルト）					
	例	設定	AT+CLIR=0	表示	AT+CLIR?	テスト	AT+CLIR=?
AT+CMEE=[n]		FOMA 端末のエラーレポートの形式を設定します。☛P426 n=0:「ERROR」を表示します。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1:「+CME ERROR：xxxx」の形式（xxxxは数字）で表示します。 n=2:「+CME ERROR：xxxx」の形式（xxxxは文字）で表示します。					
※1、※2	例	設定	AT+CMEE=0	表示	AT+CMEE?	テスト	AT+CMEE=?
AT+CNUM		FOMA 端末の自局番号を表示します。「+CNUM:,“number”,type」の形式で表示します。 number:電話番号 type=129:「+81」を表示しません。　type=145:「+81」を表示します。					
	例	設定	AT+CNUM	表示	なし	テスト	AT+CNUM=?
AT+CR=[n]		回線接続時に「CONNECT」が表示される前に、通信の種別（パケット通信または64Kデータ通信）を表示するかどうかを設定します。 n=0:表示しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1:表示します。「+CR:serv」の形式で表示します。 serv=SYNC:64Kデータ通信　serv=GPRS:パケット通信					
※1、※2	例	設定	AT+CR=0	表示	AT+CR?	テスト	AT+CR=?
AT+CRC=[n]		着信時に+CRING:typeのリザルトコードを使用するかどうかを設定します。 n=0:+CRING:typeのリザルトコードを使用しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1:+CRING:typeのリザルトコードを使用します。応答例は以下のとおりです。 パケット通信　…+CRING:GPRS “PPP”,,, “mopera.ne.jp” 64Kデータ通信…+CRING:SYNC					
※1、※2	例	設定	AT+CRC=0	表示	AT+CRC?	テスト	AT+CRC=?

コマンド	概要・パラメータ						
AT+CREG=[n]	圏内／圏外情報を表示するかどうかを設定します。 n=0: 表示しません。（お買い上げ時、パラメータ省略時）　n=1: 表示します。 AT+CREG? を入力すると、「+CREG:n,stat」の形式で表示します。 　stat=0: 圏外　stat=1: 圏内 (home)　stat=4: 不明　stat=5: 圏内 (visitor)						
※ 1、※ 2	例	設定	AT+CREG=0	表示	AT+CREG?	テスト	AT+CREG=?
AT+GMI	FOMA 端末の製造会社名を表示します。						
	例	設定	AT+GMI	表示	なし	テスト	AT+GMI=?
AT+GMM	FOMA 端末名を表示します。						
	例	設定	AT+GMM	表示	なし	テスト	AT+GMM=?
AT+GMR	FOMA 端末のバージョンを表示します。						
	例	設定	AT+GMR	表示	なし	テスト	AT+GMR=?
AT+IFC=[n,[m]]	パソコンと FOMA 端末間のローカルフロー制御方式を設定します。 n は DCE by DTE の制御を設定します。 　n=0: フロー制御しません。　n=1:XON/XOFF フロー制御します。 　n=2:RS/CS(RTS/CTS) フロー制御します。（お買い上げ時） m は DTE by DCE の制御を設定します。省略すると DCE by DTE と同じ入力値になります。 　m=0: フロー制御しません。　m=1:XON/XOFF フロー制御します。 　m=2:RS/CS(RTS/CTS) フロー制御します。（お買い上げ時） パラメータをすべて省略すると、AT+IFC=2,2 になります。						
※ 1、※ 2	例	設定	AT+IFC=2,2	表示	AT+IFC?	テスト	AT+IFC=?
AT+WS46=[22]	発信時に FOMA 端末が使用する無線ネットワークを設定します。						
※ 1、※ 2	例	設定	AT+WS46=22	表示	AT+WS46?	テスト	AT+WS46=?
ATA	パケット通信、64K データ通信の着信時に着信処理をします。パケット通信の着信時には下記を入力できます。 ATA184: 発信者番号通知なし着信　ATA186: 発信者番号通知あり着信						
	例	設定	ATA	表示	なし	テスト	なし
A/	直前に実行したコマンドを再実行します。						
	例	設定	A/	表示	なし	テスト	なし
ATD	パケット通信または 64K データ通信の発信をします。 ・パケット通信…「ATD＊99＊＊＊cid#」の形式で入力します。cidを省略すると、cid=1になります。 「ATD184 ＊ 99」で始まる形式で入力した場合、指定した cid の APN に対して 184（発信者番号通知なし）が付加されます。（186 でも同様です） ・64K データ通信…「ATD 電話番号」の形式で入力します。 ・リダイヤル発信…「ATDL」または「ATDN」の形式で入力します。						
	例	設定	ATD 電話番号	表示	なし	テスト	なし
ATE[n]	パソコンから送信された文字をエコーバックします。 n=0: エコーバックしません。（パラメータ省略時） n=1: エコーバックします。（お買い上げ時）						
※ 1、※ 2	例	設定	ATE0	表示	なし	テスト	なし
ATH	通信を切断します。						
	例	設定	ATH	表示	なし	テスト	なし
ATI[n]	認識コードを表示します。 n=0:「NTT DoCoMo」と表示します。（パラメータ省略時） n=1:FOMA 端末名を表示します。　n=2:FOMA 端末のバージョンを表示します。						
	例	設定	ATI0	表示	なし	テスト	なし
ATO	オンラインコマンドモードからオンラインデータモードに移行します。						
	例	設定	ATO	表示	なし	テスト	なし
ATQ[n]	パソコンにリザルトコードを表示するかどうかを設定します。 n=0: リザルトコードを表示します。（お買い上げ時、パラメータ省略時） n=1: リザルトコードを表示しません。						
※ 1、※ 2	例	設定	ATQ0	表示	なし	テスト	なし
ATV[n]	リザルトコードの表示方法を設定します。 n=0: 数字で表示します。（パラメータ省略時） n=1: 文字で表示します。（お買い上げ時）						
※ 1、※ 2	例	設定	ATV1	表示	なし	テスト	なし

コマンド		概要・パラメータ					
ATX[n]		ビジートーン検出、ダイヤルトーン検出、通信速度表示を設定します。 n=0: ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出なし、通信速度表示なし。(パラメータ省略時) n=1: ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出なし、通信速度表示あり。 n=2: ビジートーン検出なし、ダイヤルトーン検出あり、通信速度表示あり。 n=3: ビジートーン検出あり、ダイヤルトーン検出なし、通信速度表示あり。 n=4: ビジートーン検出あり、ダイヤルトーン検出あり、通信速度表示あり。(お買い上げ時)					
※1、※2	例	設定	ATX1	表示	なし	テスト	なし
ATZ		FOMA 端末の設定を AT&W で記憶させた不揮発メモリの内容に復元します。パケット通信または 64K データ通信の着信中に入力したときは、着信には影響を与えずに復元します。通信中に入力すると、通信を切断してから復元します。					
	例	設定	ATZ	表示	なし	テスト	なし
ATS0=[n]		FOMA 端末で自動着信するまでの呼出(RING)回数を設定します。 n=0: 自動着信しません。(お買い上げ時、パラメータ省略時) n=1 ～ 255					
※1、※2	例	設定	ATS0=0	表示	ATS0?	テスト	なし
ATS2=[n]		エスケープキャラクタを設定します。 n=0 ～ 127(43: お買い上げ時、0: パラメータ省略時、127: エスケープ処理を無効にする)					
※1	例	設定	ATS2=43	表示	ATS2?	テスト	なし
ATS3=[13]		AT コマンドの文字列の最後を認識する復帰 (CR) キャラクタを設定します。エコーバックされたコマンド文字列とリザルトコードの最後に付けられます。(設定値は変更できません)					
※1	例	設定	ATS3=13	表示	ATS3?	テスト	なし
ATS4=[10]		改行 (LF) キャラクタの設定をします。英文字でリザルトコードを表示する場合に、復帰 (CR) キャラクタの次に付けられます。(設定値は変更できません)					
※1	例	設定	ATS4=10	表示	ATS4?	テスト	なし
ATS5=[8]		AT コマンド入力中に、入力バッファの最後のキャラクタを削除するバックスペース (BS) キャラクタを設定します。(設定値は変更できません)					
※1	例	設定	ATS5=8	表示	ATS5?	テスト	なし
ATS6=[n]		ダイヤルするまでのポーズ時間を設定します。このコマンドを使用しても、レジスタは設定されますが、動作しません。 n=2 ～ 10:単位は秒。(5: お買い上げ時、パラメータ省略時)					
※1	例	設定	ATS6=5	表示	ATS6?	テスト	なし
ATS7=[n]		パケット通信または 64K データ通信で、発呼してから接続できるまでの待ち時間を設定します。 n=1 ～ 255:単位は秒。(60: お買い上げ時、パラメータ省略時)					
※1、※2	例	設定	ATS7=60	表示	ATS7?	テスト	なし
ATS8=[n]		カンマダイヤル機能(ポーズ時間)を設定します。このコマンドを使用しても、レジスタは設定されますが、ポーズ時間は 3 秒で固定です。 n=0 ～ 255:単位は秒。(3: お買い上げ時、0: パラメータ省略時)					
※1	例	設定	ATS8=3	表示	ATS8?	テスト	なし
ATS10=[n]		自動切断までの遅延時間を設定します。このコマンドを使用しても、レジスタは設定されますが、動作しません。 n=1 ～ 255:単位は 1/10 秒。(1: お買い上げ時、パラメータ省略時)					
※1、※2	例	設定	ATS10=1	表示	ATS10?	テスト	なし
ATS30=[n]		データ転送がなかった場合、通信を切断するまでの時間を設定します。64K データ通信の場合に有効です。 n=1 ～ 255: 単位は分。 n=0: 切断しません。(お買い上げ時、パラメータ省略時)					
※1	例	設定	ATS30=0	表示	ATS30?	テスト	なし
ATS103=[n]		着サブアドレスを付けて発信するときの区切りに使う記号を設定します。64K データ通信の場合に有効です。 n=0: *(パラメータ省略時) n=1:/(お買い上げ時) n=2:¥					
※1	例	設定	ATS103=0	表示	ATS103?	テスト	なし
ATS104=[n]		発サブアドレスを付けて発信するときの区切りに使う記号を設定します。64K データ通信の場合に有効です。 n=0:#(パラメータ省略時) n=1:%(お買い上げ時) n=2:&					
※1	例	設定	ATS104=0	表示	ATS104?	テスト	なし
AT¥S		コマンドの設定内容と S レジスタを表示します。					
	例	設定	AT¥S	表示	なし	テスト	なし
AT¥V[n]		接続時に拡張リザルトコードを使用するかどうかを選択します。 ATX コマンドのパラメータが n=1 ～ 4 の場合に有効です。 n=0: 拡張リザルトコードを使用しません。(お買い上げ時、パラメータ省略時) n=1: 拡張リザルトコードを使用します。					
※1、※2	例	設定	AT¥V0	表示	なし	テスト	なし

切断理由一覧

■ パケット通信

値	理　由
27	APN が存在しない、または正しくありません。
30	ネットワークによって切断されました。
33	パケット通信の契約がされていません。
36	正常に切断されました。

■ 64K データ通信

値	理　由
1	指定した番号は存在しません。
16	正常に切断されました。
17	相手側が通信中のため、通信ができません。
18	発信しましたが、指定時間内に応答がありませんでした。
19	相手側が呼出中のため通信ができません。
21	相手側が着信を拒否しました。
63	ネットワークのサービスおよびオプションが有効ではありません。
65	提供されていない処理速度を指定しました。
88	端末属性の異なる端末に発信した、または着信を受けました。

エラーレポート一覧

数字表示	文字表示	理　由
10	SIM not inserted	FOMA カードがセットされていません。
15	SIM wrong	ドコモ以外の SIM（FOMA カードに相当する IC カード）が挿入されています。
16	incorrect password	パスワードが間違っています。
100	unknown	不明なエラーです。

AT コマンドの補足説明

■ **コマンド名：AT+CGDCONT=［パラメータ］**

パケット発信時の接続先（APN）を設定します。

書式

AT+CGDCONT＝［<cid>［, "PPP"［, "<APN>"]]]

パラメータ説明

＜ cid ＞：1 ～ 10

お買い上げ時、cid1 には「mopera.ne.jp」、cid3 には「mopera.net」が登録されています。

＜ APN ＞：任意

実行例

「abc」という APN 名を登録する場合のコマンド（＜ cid ＞ =2 の場合）

AT+CGDCONT=2, "PPP", "abc"

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGDCONT=

すべての＜ cid ＞の設定をクリアします。ただし、「＜ cid ＞ =1」と「＜ cid ＞ =3」の設定はお買い上げ時の状態に再設定されます。

AT+CGDCONT= ＜ cid ＞

指定された＜ cid ＞の設定をクリアします。ただし、「＜ cid ＞ =1」と「＜ cid ＞ =3」の設定はお買い上げ時の状態に再設定されます。

AT+CGDCONT= ?

設定可能な値のリストを表示します。

AT+CGDCONT ?

現在の設定値を表示します。

■ **コマンド名：AT+CGEQMIN=[パラメータ]**

PPP パケット通信確立時にネットワーク側から通知される QoS（サービス品質）を許容するかどうかの判定基準値を登録します。

書式

AT+CGEQMIN=[＜ cid ＞ [,, ＜ Maximum bitrate UL ＞ [, ＜ Maximum bitrate DL ＞]]]

パラメータ説明

＜ cid ＞：1 ～ 10

お買い上げ時、cid1 には「mopera.ne.jp」、cid3 には「mopera.net」が登録されています。

＜ Maximum bitrate UL ＞：なしまたは 64

＜ Maximum bitrate DL ＞：なしまたは 384

「Maximum bitrate UL」および「Maximum bitrate DL」では、FOMA 端末と基地局間の上りおよび下りの最低通信速度（kbps）を設定します。「なし（お買い上げ時）」に設定した場合は、すべての速度を許容しますが、「64」および「384」を設定した場合、これらの速度以下の接続は許容されないため、パケット通信が接続されない場合がありますのでご注意ください。

実行例

(1) 上り／下りすべての速度を許容する場合のコマンド（＜ cid ＞ =2 の場合）
AT+CGEQMIN=2

(2) 上り 64kbps ／下り 384kbps の速度のみ許容する場合のコマンド（<cid>=4 の場合）
AT+CGEQMIN=4,,64,384

(3) 上り 64kbps ／下りすべての速度のみ許容する場合のコマンド（＜ cid ＞ =5 の場合）
AT+CGEQMIN=5,,64

(4) 上りすべての速度／下り 384kbps の速度のみ許容する場合のコマンド（＜ cid ＞ =6 の場合）
AT+CGEQMIN=6,,,384

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGEQMIN=
　すべての＜ cid ＞の設定をクリアします。

AT+CGEQMIN= ＜ cid ＞
　指定された＜ cid ＞をお買い上げ時の状態に戻します。

AT+CGEQMIN=？
　設定可能な値のリストを表示します。

AT+CGEQMIN？
　現在の設定を表示します。

■ コマンド名：AT+CGEQREQ=［パラメータ］

PPP パケット通信の発信時にネットワークへ要求する QoS（サービス品質）を設定します。

書式

AT+CGEQREQ=[＜ cid ＞]

パラメータ説明

上り 64kbps ／下り 384kbps の速度で接続を要求するコマンドのみ設定可能です。各 cid にはその内容がお買い上げ時に設定されています。

＜ cid ＞：1 ～ 10
　お買い上げ時、cid1 には「mopera.ne.jp」、cid3 には「mopera.net」が登録されています。

実行例

(＜ cid ＞ =2 の場合)
AT+CGEQREQ=2

パラメータを省略した場合の動作

AT+CGEQREQ=
　すべての＜ cid ＞をお買い上げ時の状態に戻します。

AT+CGEQREQ= ＜ cid ＞
　指定された＜ cid ＞をお買い上げ時の状態に戻します。

AT+CGEQREQ=？
　設定可能な値のリストを表示します。

AT+CGEQREQ？
　現在の設定を表示します。

リザルトコード

■ リザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
0	OK	正常に実行しました。
1	CONNECT	相手と接続しました。
2	RING	着信が来ています。
3	NO CARRIER	回線が切断されました。
4	ERROR	コマンドを受付られません。
6	NO DIALTONE	ダイヤルトーンの検出ができません。
7	BUSY	話中音の検出中です。
8	NO ANSWER	接続完了タイムアウトしました。
100	RESTRICTION	通信ネットワークが混雑しています。しばらくしてから接続し直してください。
101	DELAYED	リダイヤル発信規制中です。

■ 拡張リザルトコード

数字表示	文字表示	FOMA 端末－パソコン間の接続速度
5	CONNECT 1200	1200bps
10	CONNECT 2400	2400bps
11	CONNECT 4800	4800bps
13	CONNECT 7200	7200bps
12	CONNECT 9600	9600bps
15	CONNECT 14400	14400bps
16	CONNECT 19200	19200bps
17	CONNECT 38400	38400bps
18	CONNECT 57600	57600bps
19	CONNECT 115200	115200bps
20	CONNECT 230400	230400bps
21	CONNECT 460800	460800bps

おしらせ

- ATV［n］コマンド（☛P424）が n=1 に設定されている場合には文字表示（初期値）、n=0 に設定されている場合には数字表示でリザルトコードが表示されます。
- 従来のRS-232Cで接続するモデムとの互換性を保つため通信速度の表示はしますが、FOMA 端末－PC 間は FOMA USB 接続ケーブル（別売）で接続されているため、実際の接続速度と異なります。

■ 通信プロトコルリザルトコード

数字表示	文字表示	意　味
1	PPPoverUD	64K データ通信で接続
2	AV32K	AV（テレビ電話）[32K] で接続
3	AV64K	AV（テレビ電話）[64K] で接続
5	PACKET	パケット通信で接続

■ リザルトコード表示例

ATX 0 が設定されている場合

AT¥V コマンド（☛P425）の設定に関わらず、接続完了の際に CONNECT のみの表示となります。

文字表示例：ATD ＊ 99 ＊＊＊1 #
CONNECT（数字表示の場合は「1」）

ATX 1 が設定されている場合

• ATX1、AT¥V0 が設定されている場合（初期値）
接続完了のときに、CONNECT ＜ FOMA 端末－ PC 間の速度＞の書式で表示します。

文字表示例：ATD ＊ 99 ＊＊＊1 #
CONNECT 460800（数字表示の場合は「1 21」）

• ATX1、AT¥V1 が設定されている場合※1
接続完了のときに、以下のように表示します。

文字表示例：ATD ＊ 99 ＊＊＊1 #
CONNECT 460800 PACKET mopera.ne.jp/64/384（数字表示の場合は「1 21 5」）

FOMA 端末－ PC 間速度 460800bps で、mopera.ne.jp に、上り最大 64kbps、下り最大 384kbps で接続したことを表します。

※1：ATX1、AT¥V1 を同時に設定した場合、ダイヤルアップ接続が正しくできない場合があります。
AT¥V0 だけでのご利用をおすすめします。